

人とのつながりを大切に



同好会ひろば

第257号
H28. 3. 11
No.6

人とのつながりを大切にした同好会活動を振り返って

先輩・後輩の「縦」のつながり、同世代の「横」のつながり、小学校と中学校の校種を越えてのつながりなど、人とのつながりを大切にしながら、一年間、同好会活動を進めてきました。

研究活動では

「人とつながり、共に高め合う授業研究」を掲げ、研究活動を進めてきました。

本年度も、全小社研名古屋大会の大会理論を受け、研究主題を「ともに生き合う社会を目指す子どもたちの社会科学習」と設定しました。

小学校部会では、「協働から参画を志向する子どもを育てる授業づくり」を目指して、よりよい社会の実現に取り組む人々の営みを教材化したり、学習問題づくりを含めた学習過程を工夫したりしました。また、学習活動として、個と全体とを関わらせた振り返り活動について、実践に基づき、議論を積み重ねてきました。中学校部会では、「人とつながり、主体的に社会の形成に参画しようとする生徒」を育てることを目指し、学び合いの学習活動と、社会との関わりを捉えさせる教材化の工夫に焦点を当て、授業研究に取り組んできました。

研修活動では

「人とつながり、友と学び合う研修活動」を掲げ、研修活動を進めてきました。

授業力アップ研修グループでは、若手会員の中からサブリーダーを選び、リーダーの先生の指導を受けながら、グループの運営を、若手会員が主体となって行っていくようにしました。

また、夏季休業中には、事務局と若手会員が一堂に会し、授業づくりについて意見交流する機会を設定しました。さらに、昨年度は10月に行っていた全体会を6月に変更し、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 澤井陽介 先生をお招きして、講演会を行ったり、会場校の校内プレ大会の際に、授業を参観する機会を設定したりするなど、研修活動の見直しと充実を図りました。

本年度も、「人とのつながり」によって、同好会活動を無事に終えることができました。同好会活動に多くの方々からお力添えを賜りましたことに、厚くお礼申し上げます。

【第257号 紙面】

今年度の同好会活動を振り返って・・・(p1)	小中合同研究発表会・・・(p4)
2月全体会ご講演	授業づくり研修会・・・(p5)
名古屋市立小中学校長会社会科部会長	日々雑感・・・(p6)
飯田小学校校長 間瀬 亨 先生	全小社研に向けて・・・(p6)
・・・(p2・3)	

2月全体会 ご講演「ありがとう社会科同好会」

名古屋市立小中学校長会社会科部会長 飯田小学校長 間瀬 亨 先生

2月5日(金)に愛知県スポーツ会館において、2月全体会が行われ、多くの会員の先生方が参加しました。名古屋市小中学校長会社会科部会長 飯田小学校長 間瀬 亨 先生に、ご自身のこれまでのご経験を踏まえ、「ありがとう社会科同好会」という演題で、ご講演をしていただきました。

<社会科同好会との出会い>

初任者として赴任した4月のある日、先輩方に誘われて、ある小学校の図書室に行きました。この時が、社会科同好会との初めての出会いでした。

2年目になって、同学年の先輩と一緒に低学年部会に初めて参加しました。そこでは、同好会員の先生方が授業の様子を詳しく発表してみえました。話し合いも、自分の学級の子どもの実態を踏まえながら、子どもの発言や資料を分析してみえました。話し合いの内容がとても具体的で、社会科の面白さを味わうことができました。



<教研に取り組んで>

5年目を迎え、教研で「環境教育」に取り組みました。社会科の先輩に教えていただきながら、校庭と国道に水を入れたビーカーを置き、しばらく放置してから、水をろ過したり、ぬらしたガーゼをつるしたりして、国道沿いと校庭の空気の汚れの違いに気付かせました。その後、交通量を調査したり、学校に隣接する工場の見学をしたりして、その原因を考えさせ、調べたことをポスターにまとめて、全校に知らせるという実践を行いました。

県教研後に、全国教研での発表者の通知が届きました。レポートを提出し、県で発表した資料やTPの手直しをしていたところ、先輩の先生が声を掛けてくださり、同好会のレポートや自作の資料を見せてもらいながら、TPの作り方などを教えていただきました。学習指導から学級経営まで親身になって教えてくださった社会科の先輩がみえなければ同好会に入ることなかったと思います。お世話になりました。

<指導法2回生で学んだこと>

指導法部会の2回生の年、ある先生との出会いが、私たちの年次に、大きな影響を与えました。その先生からは、子どもの考えを揺さぶり続ける授業展開の大切さを教えていただきました。しかし、それよりも、絶えず語られていた「社会科教師は学校で率先して仕事にあたりなさい」という教師としての心構えと、「この仲間は本人が辞めると言うまでは、いつまでも互いに高め合う仲間であり続けなさい」という、仲間とは何かを示唆する言葉が忘れられません。あれから30年、私たちの仲間は、今でもご指導いただいております。

<平成2年 全小社研名古屋大会>

当時、私の勤めている学校が、平成2年に開催される全小社研名古屋大会の会場校に選ばれ、全校で取り組みを始めました。自分の授業を録音して通勤の途中で聞いたり、テープ起こしをして、発問や子どもの反応を分析したりしました。校内の指導案作りと合わせて、他県の全小社研に毎年出掛けました。社会科の授業について学ぶとともに、校内掲示や各校の全体会の進め方などを調べてきました。

平成2年の名古屋大会は「社会を見る目を培い、変化に対応できる児童の育成」という研究主題を掲げていました。社会的事象の意味を、人・しくみ・自然とのかかわりをもつ人の営みの具体的な様子から追究し、社会生活について理解し、自ら判断して、よりよい社会を考えることができる子どもの育成を目指しました。そのために、「見いだす」「見解く」「見変える」という段階を学習展開に位置付けた授業を公開しました。私は、名古屋仏壇を教材として「職人の営みを見直し、伝統的な産業について自分の考えをもつ」という「見変える」段階で授業をすることになっていました。追究段階で提示した作業の様子を写した写真を示せば、工程や職人の技は想起できると思いました。しかし、そこから自分の考えをもたせる方法が浮かびませんでした。このままでは、授業が先に進まなくなる不安がありました。このことで悩んでいたある日のこと、一軒の仏壇の店を見付けました。店の中にあるのは確かに仏壇の彫り物でしたが、木の彫り物ではなくプラスチックでできたものでした。店の方に話を伺うと、プラスチックに金箔を貼ることで、値段を抑えた仏壇に仕上げるとのことでした。これを使って、子どもたちに、「木とプラスチック、どちらの仏壇を選ぶか」を考えさせれば、職人の技を見直した上で、自分の考えをもたせることができると考えました。子どもたちは、職人の技と値段に着目して、それぞれ意見を述べて授業を終えることができました。

<平成28年 全小社研名古屋大会に向けて>

名古屋大会の7年前から、理論作りが始まりました。他にも、「日程はいつにするか。全体会の会場はどこにするか。会場校は幾つにして、どこに受けてもらうか。準備委員会の組織をどのように作り上げるか。」などについて話し合い、24年6月に準備委員会を立ち上げました。遅々とした歩みではありましたが、名古屋大会に向けて準備を一步一步進めていきました。

そして、26年6月。実行委員会が発足し、各組織が一斉に動き出しました。私は、社会科のもっているエネルギーを感じました。全小社理論と同好会実践が輪を一つにして取り組み出したのもこの年でした。そして、一年を掛けて、理論作成に関わってきた役員さんが中心となって会員の皆さんに説明を重ねました。理論に沿った実践を積み上げたことによって、27年度の各学年部会の実践は、それぞれの部会で目指す子ども像やその姿に迫るための教材化や学習展開について検討され、複数の単元で実践が行われるまでに至りました。同好会の研究が大きな変化を遂げた一年だったと思います。

10月の大会の成功に向けて、残された日々を会員の総力を挙げて取り組んでほしいと思います。名古屋大会を今後の同好会活動の新たなスタートとして位置付け、同好会活動がますます活性化し、会員の皆さんの力量がさらに高まることを期待しております。

<おわりに>

37年間、教育の仕事に携わることができたのも、「来るものは拒まず、去る者は追わず」を合言葉に、そして、「人とのつながりを大切にして共に学び合い、高め合う教師」を目指してきた同好会の皆様のおかげだと感謝しております。ありがとう社会科同好会。

小学校の各学年グループ、中学校の各分野グループから、一年間の研究の成果と課題、そして、平成28年度に行われる全小社研名古屋大会を見据え、研究から明らかとなってきた「協働から参画を志向する子どもを育てる授業づくり」の要件について発表がありました。

質疑応答・意見交換

〈小学校 3・4年生グループの発表に対して〉

Q：子どもたちに社会的事象を、どのように自分事として捉えさせていくのか、また、改善点もあれば教えてほしい。

A：3年生→生産者の生の声で課題について話をしてもらうことで、子どもたちが切実感をもち、自分事として社会的事象がもつ課題について考えていくことができる。

4年生→警察・地域・名古屋市の三者の関係図を作成し、子どもがどこに入ることができるのか考えさせるとよかった。考えさせることで、子どもは地域の一員であることに気付き、地域の一員として課題にどのように取り組むとよいのか自分事として捉えることができる。

〈中学校 地理的分野グループの発表に対して〉

Q：地理的分野グループとして「学び合い」をどのように考えているのか。また、学び合ったことで、どのように生徒が変容したのか教えてほしい。

A：グループでの話し合い活動によって友達の考えも取り入れ、その後、早見表を使い、他のグループの意見を聞き、考えを深めていくことが学び合いであり、子どもたちは互いに考えを深めることができた。

ご指導・ご助言 名古屋市社会科研究会委員長 富士中学校 深谷 幸弘 先生

- ・ 指導体験記録や研究員研究計画書を書く意義として、一年間を振り返って成果と課題を洗い出し、自身の教育活動をより実りあるものとするところがある。
- ・ 各学年・各分野グループの発表での「振り返り」とは、どのように計画をして、実践をしていくのか、検証してさらに改善していくことが重要である。
- ・ 小学校では学習過程や学習活動、中学校では学び合いの学習活動や社会との関わりを捉えさせる教材化を中心として、実践研究が進められてきた。今後、同じ実践を行っていくのであれば、どのように改善することが重要なのかを、もう一度、各学年・各分野グループで考えてほしい。また、身近、自分事、社会参画の視点も大切だが、自分が担任している子ども一人一人の思考の流れをイメージして実践に取り組んでいくためには、日頃の学級経営が大切である。
- ・ 今年の10月には、全小社研名古屋大会があり、皆さんの振り返りを生かして、名古屋の社会科教育のすばらしさを全国に発信してほしいと思う。中学校では、平成34年全中社研名古屋大会が迫っている。小・中が集まり、互いに学び合うことが名古屋のよさであり、今後も互いに名古屋の社会科を発展させてもらいたい。

授業づくり研修会

1月15日（金）於：中小企業振興会館

○ 小学校部会 講師：愛知教育大学附属名古屋小学校 教諭 伊藤 昭良 先生

「学習問題を中心に据えた単元構成」というテーマで研修を行いました。初めに、学習問題とは、学習を通して解決すべき学習のテーマで、子どもの追究意欲を刺激するものであること、子どもにとっても教師にとっても価値のあるものでなくてはならないという説明がありました。また、学習問題を追究することで、知識・理解だけでなく、中心概念ができ、得た知識を比較・関連させて社会的事象について考えることができるようになる。そして、話し合うことによって新たな考え方をもったり、自分の考えを深めたりすることができるようになるという説明もありました。

他にも、単元構成の中で、学習問題を設定していく流れを説明され、単元を包括する学習問題を設定し追究していくのか、習得した知識を基に学習問題を設定し追究していくのか、小單元ごとに学習問題を設定し追究していくのかを考え、その上で、単元のねらいや知識の構造図を参考にアレンジしていくとよいというアドバイスもいただきました。

学習問題をどのように作り、設定していけばよいのか、具体的な授業場面を例に挙げ説明していただき、若手会員にとって、分かりやすい研修となりました。

○ 中学校部会 講師：名古屋市立笹島中学校 教諭 野口 哲平 先生

「JICA を活用した地理の授業づくり～ガーナでの研修を通して～」というテーマで研修を行いました。前半は、JICAでの開発教育指導研修において重視していることは、【①知識を踏まえた講義型とアクティブ・ラーニングにもつながる参加型を相互に利用できること】【②よりよく生きることがよりよい社会を築くことにつながることを願うこと】【③共に生きる力を育てるために、わたし、あなた、みんなへと関わる力を育てること】などがあり、それらを実現するために、ワークショップの実体験やファシリテーター（進行・対話の活性化係）の手法を学ぶことが大切であるという内容でした。後半は、パワーポイントを用いて、ガーナでの研修の流れや街中や学校の様子など、豊富な写真資料を示しながら具体的に説明していただき、明日の授業に生かすことのできるとても有意義な研修となりました。



小中合同研究発表会・授業づくり研修会に参加して

小中合同研究発表会・授業づくり研修会に参加した先生方から寄せられた「声」を紹介させていただきます。

○ 神の倉小学校 松岡 知幸 先生

小中合同研究発表会では、小学校部会の発表を聞いて、振り返りをどのように共有して、どう追究に生かすことができるのか、そのための手立てを考えていきたいと思いました。中学校部会の発表を聞いて、学び合うための話し合いの進め方について、参考になったことがたくさんありました。

○ 鶴舞小学校 荒木 健太 先生

授業づくり研修会では、学習問題について再度確認することができました。また、子どもに考えさせるための資料選びを、しっかり行っていきたいと思いました。資料を提示するのに効果的なタイミングがあると思いました。

来年度、西山小学校では調理場の民間委託が導入される予定である。「厳しい財政状況・人員体制の中で、民間活力の導入によって、学校給食を安定的に実施するため」ということが導入理由である。このような民間導入は、「経費削減」だけでなく「サービス向上」を可能にするとして、学校現場以外ではこれまでも盛んに進められてきた。そして、民間を導入した方がいいといった、世の中の風潮も感じられる。昨年度まで私が勤務していた職場でも、「公務員は甘い」「民間はもっと厳しい」などの批判を受けることが多かった。しかし、このような風潮に対して、「雇用の削減・低賃金化」「責任の所在の曖昧さ」といった問題点については、どれだけ周知され、どれだけメリット・デメリットを理解した上で判断されているのだろうと、私は常々疑問に感じていた。

社会科学習の目標は、「社会認識を通して、公民的資質の基礎を養う」ことである。「公民的資質の基礎」とは「よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎」であり、私は合理的意志決定力が重要だと考えている。社会科学習で身に付けた知識や学び方を総動員して、身の回りに存在する様々な価値判断が求められる事象に対して、合理的に自分の意志を決めることができるようにしたい。そして、様々な立場や考え方の人々と意見をすり合わせ、分析し、冷静に判断を下すことができるようにしたい。これからの社会に生きる子どもたちには、そのような力を身に付けて、社会に参画していくことがさらに求められるのではないだろうか。

このような子どもを育てたいという気持ちだけでなく、自分自身も合理的意思決定力を意識していきたい。そのためにも、何事も無批判で受け入れるのではなく、常に情報収集し、どうするとよりよくなるかを考えていきたい。

全小社研名古屋大会に向けて

全小社研名古屋大会実行委員会 全体会（2月2日） 於：ルブラ王山

本年度の振り返りとして、第4回 全体会が開かれました。実行委員会の各先生方をはじめとし、名古屋市社会科同好会の現役会員とOBの先生方が一同に集まり、盛大に開催されました。報告会では、本年度、同好会で取り組んだ実践の成果と課題を報告し、名古屋市教育委員会指導室 指導主事 出井伸宏 先生に、ご指導をいただきました。

いよいよ平成28年10月20日（木）・21日（金）に、全小社研名古屋大会が開催されます。同好会員の総力を結集し、大会を成功に導きましょう！